

困難な問題を抱える女性に関する実態調査 関係団体ヒアリングから見えてきた課題について

＜ヒアリングから分かった実態と課題＞

1. 困難な問題を抱える女性の早期発見
2. 困難な問題を抱える女性の見守り及び支援体制
3. 支援対象者との関係構築
4. 関係機関の連携
5. 社会資源の不足

■ 関係団体ヒアリング調査

団体名	ヒアリング実施日
社会福祉法人太子町社会福祉協議会	令和6年4月24日
社会福祉法人四天王寺福祉事業団	令和6年8月7日
NPO 法人 Sunny Sinde Standard	令和6年4月17日

■ 困難な問題を抱える女性の実態

- ・ 町内には母子生活支援施設があり、入所者の中には知的障がいなどの障がいや病気などを抱えているケースがあり、日常生活を送るうえで困難なことがある。
- ・ 施設の退所者は、子どもが学童児の場合、転校への子どもの負担等から太子町内に転入する人が多く、保育が必要な子どもの場合、近隣に転入するケースが多い。
- ・ 施設入所者で発達障がい等の症状を抱えている場合、自分の課題がわからないケースが多い。自分についての説明ができず、意思決定ができないため、社会に出たときに日常生活に支障が出る。
- ・ 施設から町内に転入予定のケースが、支援を離れると、家がゴミ屋敷化する恐れがある。
- ・ 親に何らかの障がい等を抱えているケースが多く、子どもに影響が出ており、支援が必要となっている。
- ・ 障がい等を抱えているが、認知されていないケースがある。

- ・ NPO 法人が関わる子どもは学校に行けない子が多く、保護者（母親）に原因があるケースがある。
- ・ NPO 法人が関わる子どもは家庭環境に問題があることが多く、保護者（母親）に対する支援が必要であることが多い。
- ・ 問題があると感じる親は、過去に虐待などを受けているケースが多く、子どもへの影響が心配である。
- ・ 社会福祉協議会で関わっているケースでは、本人が周囲と関係を構築することが難しく、支援機関は社会福祉協議会のみであることがある。
- ・ 困難な問題を抱える女性は就労が困難であり、一旦就労したとしても自分で継続できないことが多い。
- ・ 本人には支援が必要だが、支援機関とつながろうとしないことが多い。
- ・ 本人との関係構築が困難である。
- ・ 本人とは別に子どもが引きこもりになるなど問題が重層的である。
- ・ 子どもに障がいなどがあるが、支援介入できてないケースがある。
- ・ 収入に対するスマホ代の割合が大きすぎるなど金銭管理ができない。（家族含む）
- ・ 身寄りのない高齢者で日常生活に支障があるケースが増加傾向にある。

■ 支援対象者がに必要な支援等

- ・ 退所後に地域で見守る仕組みが必要。
- ・ 子どもについては要保護児童対策地域協議会や富田林子ども家庭センターなどでつながるが、あくまで子ども支援の目線での話となり、家庭環境（母親）に問題があったとしても、支援の手が回らない。

■ 連携（役割）についての現状

- ・ 母子生活支援施設の地域での理解が進んでいる。
- ・ 関係機関の連携が不十分なケースがある。
- ・ それぞれの役割をわかっての連携が必要である。

■ その他

- ・ NPO 法人としては、活動を継続するにあたり、財源の確保が課題である。
- ・ 町内の社会資源が少ない。
- ・ 母子生活支援施設での自立支援
 発達障がいなどにより、日常生活で何が困るかがわからない母親に対しては、施設に入所中に困る状況をあえて作り、課題を認知してもらうことで生活力をつけるトレーニングをしている。（育ちなおし）